



【教育目標】 自らの可能性を信じ、努力することのできる生徒を育成する。
【一学校一改善】 ルールメイキング (継続) 先手あいさつ 一人一入賞

思いを「ことば」にすること

先月の10月14日(金)に生徒会立会演説会を行いました。演説会には、8人の生徒会役員立候補者が、西中生徒会への思いや考え、今後の展望などを「ことば」にして、堂々と述べてくれました。その姿は、強い意志や熱意に溢れ、どの演説も、自分たちの生活の在り方を見直し、新たな視点をもつことの大切さや皆で取り組むことの大切さなど、多くの気づきを与えてくれました。

演説者はその過程において、聞き手の生徒たちは演説を聞いて、「ことばの力」の大切さを学んだと思います。この「ことばの力」とは、具体的には、自分の思いや考えを文字にする(書く)、それを皆の前で発表する(話す・読む・伝える)、相手の心をことばで受け取る(聞く)といったことです。ぜひ、生徒の皆さんには、思ったり考えたりしたことを整理して「ことば」にし、行動力(実践力)につなげてほしいと思っています。

そして、私たちは、国語の時間だけでなく、全教育活動を通して、「ことばの力」を身に付けさせ、人を思いやり、お互いを理解しあうことができる生徒を育てていきたいと思っています。

【放送による立会演説会】



心の鬼を退治する

【10月26日(水)全校朝会での話】

鬼退治で有名な「桃太郎」の話は皆さんご存じのとおりです。桃太郎は、鬼が島へ鬼を退治に行く途中で、犬と猿と雉に出会います。犬と猿と雉は、人間の成長に必要な力を表しています。

犬は、激しく鬼に食いついていく力、つまり大きなことに挑戦する強い意志力を表しています。

猿は、鬼の岩をよじ登り、門を開ける賢さやすばやさ、問題の行き詰まりを解決する直感的な対応力を表しています。

雉は、上空から鬼が島を探る、つまり社会の問題点やよさを見抜く洞察力を表しています。

そして、一番大切な力が、それらをまとめていく桃太郎の統率力です。桃太郎の話は、鬼という大きな力と戦うには、4つの力が集結しなければならないということを教えています。

桃太郎の「統率力」・・・コントロールする力
犬の「意志力」・・・最後までやり抜く力
猿の「対応力」・・・切り抜ける力
雉の「洞察力」・・・問題を見抜く力

生徒の皆さんは、いずれ鬼が島という社会の荒波へ乗り込んでいかねばなりません。そのために、今、この時、「統率力」「意志力」「対応力」「洞察力」の4つの力を身に付け、伸ばしてほしいものです。「桃太郎」のように。